

Z会主催「英語語彙指導法研究会」@札幌会場 実施レポート

開催日時	2012年9月1日(土) 13:30-18:00
会場	TKP 札幌カンファレンスセンター 6階ホール 6B

▼当日のプログラム

- 13:30~14:30 講演①: 「速読英単語」シリーズ執筆者 風早 寛 先生
14:40~15:25 講演②: 北海道北見北斗高等学校教諭 徳長 誠一 先生
15:35~17:35 講演③: 立命館慶祥中学校・高等学校教諭 今井 康人 先生
※参加者人数: 42名

講演① 風早 寛 先生

テーマ: 「英単語集の作成プロセスをもとに考える、単語集の役割とその活用法」

- ・ 難関大学に合格するために必要とされるもの
 - － 発音/英文法・語法/長文読解/英作文
 - センター試験でも必要となる発音・文法の力はもちろん、難関大入試では長文読解問題での得点が合否を分ける大きな要素となる。
 - 難関大入試では、長文読解の配点が高く分量も多い(分量に対し試験時間が短い)。
英文の内容・語彙・構文のレベルも高い。
- ・ 高校でのリーディングの授業 = まとまった英文を読んで、英語の全般的な力を身につける
→ 『速読英単語』はリーディングの授業を単語集の形にしたもの
生徒たちは「早く単語を身につけたい」という思いを持っている。
 - 難関大合格のために必要となる多数のハイレベルな英単語を、限られた期間で効率よく学習する方法として、「英文を読みながら単語を身につける」速読英単語の学習法が考えられた。…この形式こそが、生徒が没頭でき、「有意義だ」と感じられる方法
- ・ 難関大に合格するための英語力のうち、長文読解に求められる力は日々の読解の訓練を避けては身につかない。同じ英文を繰り返し CD で聴き、繰り返し自分でも音読して英文が頭に浮かぶほど身体にしみ込ませること、また学校での他教科の学習や日ごろの読書から背景知識を得ることも強力な英語力へとつながる。
- ・ 『速読英単語』の学習の流れ: 記憶に残る英文を繰り返し音読することにより英文のイメージが記憶される→英文のイメージの中で単語が関連付けられて記憶に定着→記憶に定着した英単語が出发点となって、関連語や派生語の習得につながる。
 - 『速読英単語』のような文脈方式と、単語と語義だけを並べたシンプルなりスト形式の単語学習は二者択一的なものではなく、学習段階や英語のレベルに応じて使い分けられるべきもの
 - 新出単語を導入する段階や英語が苦手な生徒に対しては、まずリスト方式で提示する学習法も有効に働く。その後、入試突破に必要なレベルまで単語力を引き上げていく段階で文脈方式を採用すればよい。
 - 入試対策としては、文脈の中での正確な単語の意味・用法の理解が必須になるため、生徒たちにも入試本番では数千語レベルの大量の英文を読まなくてはならないことを日ごろから伝え、毎日 200 語程度の音読であれば気楽に行えるということを納得させるとよい。

→『速読英単語』で学習する際、必ずしも「英文→和訳→単語ページ」という順番ではなくても、自分のレベルに合わせて「和訳→英文」「単語ページ→英文」という順序で学習しても構わない。

・難関大入試の長文には、単語集に掲載されないような低頻度の難語が含まれることが一般的であり、その単語の理解を問う問題が現在の主流になりつつある。

⇒教師はそのことを生徒に伝え、本番で動揺しないように「入試の中には当然自分が知らない単語が含まれる」という心構えを持つことが重要。

・『速読英単語』では、難関 58 大学の入試英文をもとに単語の出現頻度を管理したデータをもとに、大学入試に限らない多角的な分析を行った上で掲載語を決定している。

・単語や熟語の頻度分析は、OCR ソフトや Excel などを使って行うことができる。また、英文法問題についても同様の管理が可能。

・『速読英単語』では、語法や発音・アクセントについての情報も掲載しているので、長文読解だけではなく、他分野の学習も行うことができる（生徒のレベルによっては、単語以外の要素は後回しにして学習するという流れも可）。

・『速読英単語必修編』の入試カバー率は 94%。実際に 2012 年度の北海道大学前期入試の英文でカバー率を算出してみても 97%という結果になった（必修編・上級編の掲載語で算出）。

・未知の単語の推測法

1. 飛ばし読みで構わない部分の見極め
2. 直前・直後の説明を読む
3. つなぎの語句 (on the contrary, therefore など) から関係性を考える
4. 文のほかの要素からの推測（動詞がわからない場合、主語・目的語がヒントになる）
5. そっくりな文章構造がないか
6. 同じ語がほかの場所で使われていないか
7. 単語自体は変わっているが、ほぼ同じこと（またはそれと反対のこと）をいっている箇所はないか
8. 並列関係／対立関係にあるものから推測

【講演② 徳長誠一先生の講演レポートは次のページに続きます】

講演② 徳長 誠一 先生

テーマ：「語り継がれた『合格したのは、ソクタンのおかげです』

～『速読英単語』を用いた学年での朝学習の取り組み～

- ・生徒たちの声として多いのは「何をどう学習すればいいのかわからない」という声。
- ・『速読英単語』を使ってみて、生徒たちから「速単の英文は興味深いストーリーになっているので、繰り返して読みたくなる」という声があがっている。また、CD を使って音読やディクテーションにも取り組むことができる。
- ・『速読英単語』の小テストを学年の朝学習の中で取り組む。
 - 授業内で小テストを行うよりも、学年外からの働きかけが起こるので大切さがより伝わる。また、英語教員の多忙化も避けることができる。
 - 家庭学習を行ったことがなかった生徒たちが、自主的に『速読英単語』を読み続けるなど、生徒・教員に変化が見られるようになった。

①2012 年度 北海道北見北斗高等学校 1 年の取り組み

- ・毎週月曜日の朝 SHR 前の「朝読書」（10 分間）の中で小テストを実施
- ・英文の赤字の単語を日本語→英語にするテスト（2～3 レッスン分）
- ・17 点/20 点満点を合格点とし、不合格者は翌日昼休みに再試験
- 学年団が発足する際に何度も協議を重ね実施。担任には個別の得点とクラス間の平均点一覧表を渡す。そうすることで、担任は SHR や学級通信などでテストの重要性を自主的に指導してくれるようになる。

②2003 年度～ 北海道稚内高等学校での取り組み

- ・朝 SHR 内で実施（開始当初、高校 1 年生で「英語 I」教科書本文の単語テストや総合英語の例文小テストを行っていたが、高校 2 年生で『速読英単語必修編』を導入）
 - ・英文の赤字の単語を日本語→英語にするテスト（週に 1 レッスン分）
 - ・合格点は 7 割、不合格者には音読筆写などの課題を与える
- ・語彙指導の実践例（英語 I（Crown）で使用するハンドアウト）
 - －英英定義から単語を考える
（教科書に登場する新出単語はあらかじめ意味を配布。予習段階から英和辞典をひくきっかけを与えられるようにしている。）
 - －概要把握
（CD の音声をもとにした T or F 問題とディクテーション。はじめは CD の再生スピードを 1.3 倍にして流し、次に 0.8 倍のものを流すと、slow learner・fast learner どちらにも有効。再生スピードは mp3 プレーヤーを使うことで調整可能。ディクテーションは生徒の反応もよい。）
 - －訳の予習
（チャンクごとに訳させる。細かく区切ることで生徒が苦手な部分に気づきやすい。必要に応じて総合英語や中学教科書の参照箇所を示すとよい。）
 - －演習問題
 - －自分自身のことを語るタスク（無理せずに可能な範囲で導入）

- ・まわりの教員も講習などのテキストで『速読英単語』を活用している（英文を用いた読解問題や段落展開の穴埋めなど）
- ・語彙の指導では、生徒自身に「知りたい」「調べたい」と思わせるしかけが必要。教員が何でもていねいに教え込むやり方では生徒は満足しない。
- ・「精読」と「速読／多読」を分けて考えた際、「精読」を担うのが教科書。『速読英単語』は教師のこだわりに応じて速読・多読・リスニングなど多様に活用できる。最近の国公立2次試験は、現代の諸問題について自分自身の考えを述べさせるような内容が主流になっている。自分の考えを述べるには前提となる背景知識が必要であり、普段からそのような思考ができる生徒を育てるためにも『速読英単語』を活用している。

【講演③ 今井康人先生のレポートは次のページに続きます】

講演③ 今井 康人 先生

テーマ：「語彙習得から広がる効果的な授業形態 ～短期記憶から長期記憶へ～」

- ・英語力を伸ばすためには、語彙の力が基礎となる。短期記憶としてとどめるだけではなく、それが自動化され長期記憶として蓄積されるプロセスが必要。
(音読活動をする際、英文の意味を考えさせながら音読させると生徒の無意識な発音を確認することができる。)
⇒英単語を記憶に残すためには、刺激・繰り返しが必要。
授業前→授業中→自宅学習→次回授業というように繰り返し触れることで長期記憶になる。
- ・単語をどのように記憶するか
 - ・従来、文字・意味を記憶させてきた
 - ・音の情報は右脳と結びつく ←右脳にはキャパシティの限界がないと言われる
 - ・文章の内容をビジュアル化して記憶させる (ネイティブの子どもが覚えるやり方)
- ・これからの英語学習でカギとなるのは Reading・Listening・Writing・Speaking の4技能にとどまらない Thinking の力。自ら考えそれを Output する機会が必要。
- ・効果的な語彙指導を考える上で、辞書指導も一つの側面となる。語彙ネットワークが視覚的に掴みやすい紙辞書と複数の辞書をまたいだネットワークを広げやすい電子辞書、それぞれに良さがある。「辞書を読んでおもしろい」と思うことが辞書を積極的に活用するきっかけとなる。
- ・語彙指導の実践例
 - －『ZESTAR 総合英語』p. 542 の「人のみを主語にする形容詞」の一覧を使ったペアワーク
 - ・片方が英語を言い、相手が意味を答える (日→英の組み合わせも可)
 - ・片方が英語 (または日本語の意味) を言い、相手はその単語のつづりを答える
⇒ **air writing** = 頭の中で単語がビジュアル化される
 - ※子どもやクラスの状況に合わせて、ペアの形に限らず、「教師 1 人 対 生徒全員」や縦・横の列での活動 (ラインゲーム：生徒全員を立たせた状態で教師が問題を出す。問題を答えた生徒が正解したら、縦列か横列かを選択させる。選択した列にいる生徒は全員座る。) などを適宜交えて行うとよい。活動の最後には必ず生徒の opinion を求めるようにする。
- ・『速読英単語』のように、英文の中で単語の記憶を強化させる場合、状況での使用方法がわかることが最大のメリットとなる。また、語源など単語の成り立ちを学習することも有効。
- ・授業の仕組み以外にも、生徒自らが学習できるよう「どう勉強すればよいか？」を指導してあげることが重要。生徒の能力を一方向的に決めつけずに、教師自身が生徒にとってのロールモデルとなるべく授業に臨むようにする。